

「戦略的災害医療プロジェクト」基本戦略 中間とりまとめ (案)

背景と成果目標

東日本大震災(H23.3.11)

- ◇ これまでの「想定」をはるかに超えた地震・津波
- ◇ 震災後も、避難生活の身体・精神的疲労などにより死者が発生

人的被害
 死者 15,889人
 行方不明者 2,594人

災害関連死
 教訓 3,194人

災害関連死をはじめとする「防ぎ得た死」をなくす

行動方針

- これまでの災害医療
 急性期の医療、救助・救急体制
 医療と防災関係機関の連携
- ◎ これからの災害医療(全国に先駆け展開)
 「時間軸」「連携分野」を拡大



- ◇ 平時から災害時へ、災害時から平時へ、つなぎ目のない「シームレス」な医療を提供
- ◇ 「地域ぐるみ」による医療提供体制を構築

プロジェクト行動計画

1 災害医療力の強化

医療体制

- 南部圏域 長期の孤立が懸念 → 受援体制構築
- 西部圏域 沿岸部バックアップ → 後方支援体制構築
- 東部部圏域 → 他圏域と連携



モデル地域
 「海陽町四方原」
 医療受援訓練
 (12/6)

医療人材

- DMAT・災害医療コーディネーターなど育成・強化
- 徳島DMAT養成
- DPAT創設・強化



四国発のDPAT
 (災害派遣精神医療チーム)先遣隊を創設(8/4)

対応力

- 自衛隊・警察・消防など防災関係機関との連携強化
- 行政等の指揮(コマンダー)機能ロジスティクス機能強化



自衛隊ヘリによる災害時夜間救急搬送訓練
 7/24 阿南市伊島
 11/20 海陽町

2 要配慮者支援の強化

- 高齢者、障がい者など健康維持に向けた支援 → コールセンターの活用 福祉避難所の備蓄支援
- 口腔ケア提供体制強化
- 医療やケアの中断が命にかかわる在宅患者など → 「災害医療推進基金」によるきめ細やかな支援



モデル地域
 「美波町阿部」
 栄養に関するワークショップ
 (11/7)

3 避難環境の向上

- 地域ぐるみでの避難所運営 → 運営リーダーの養成 栄養や食生活の支援
 モデル地域「美馬市木屋平」避難所運営ワークショップ(11/14)
- 快適で多様な避難環境創出 → 県産木材やフェリーの活用 → アマゾンジャパン「ほしい物リスト」で必要物資を供給(9/5 協定)



4 情報共有機能の強化

- 情報通信手段の複線化、高機能化 → 戦略的災害医療「G空間」プロジェクト(地域SNS、雨雲レーダー活用) → 防災行政無線デジタル化、IP化 アマチュア無線の普及
- 医療や防災機関などの情報共有 → 災害時情報共有システム機能強化、参画機関拡大 → マイナンバー制度 「電子お薬手帳」など 災害医療への活用検討



5 災害医療支援ビジネスモデルの創出

- 徳島ならではの防災用品の普及ビジネス機会の創出
 ・地元食材を活用した備蓄食品
 ・避難誘導灯などLED製品
 ・プロジェクトの成果を全国に発信
- 最先端防災用品の導入実証 新たな支援ビジネスの追求



阿波尾鶏：炊込みご飯 焼き鳥缶詰



パワースーツの展示・実演(9/1、10/9~11)

プロジェクト 検討予定

H26年度

医療・防災・企業などの関係者「プロジェクト会議」
 沿岸部、山間部のモデル地域「実証実験」

基本戦略
 中間とりまとめ

H27
 秋頃

最終
 とりまとめ